

北区日本語教室の立ち上げ

JET 日本語学校 山口閑子<東 2 3 >

1. はじめに

今年度はじめに「北区では日本語教室をやらないんですか？」と軽くお聞きしたところからこのプロジェクトが始まった。単に日本語を教えに行くだけでなく考えていたが、教室運営を現実的に考えれば考えるほど、やらなければならないことが見つかり、やりたいことが見つかり、模索がはじまった。ここでは、報告者がこの6か月で行ってきたこととともに考えの変化を示し、4月以降の日本語教室の具体的内容の予定について報告する。

2. R3年度5月～2月までの活動報告

- ①2021年6月第1回トライアル日本語教室（全4回）開講。
- ②2021年10月第2回トライアル日本語教室（全4回×2クラス）開講。
（午前の初級クラスと夜の入門クラスと）
- ③2022年1月日本語サロン（消防体験含む）⇒ 2月に延期
- ④2022年2月親子日本語教室 ⇒8月に延期

3. R3年度4月～1月までの考えの変化

- 4月～8月：北区には課題がたくさんあると感じていた。（例えば、日本語教室がない⇒やる気がない、行政は何もしてくれない、外国人のことを把握していない、など）
- 9月～10月：中間報告で5つの課題をあげた。
- 11月：5つの課題は誰にとっての課題なのか、誰が課題と思っているか迷い始めた。
- 1月：行政側と話してみるとあまり課題を感じていないが、課題はあるだろうと考えていることがわかった。課題が何かがわからないことが課題であると気づいた。

4. 「北区日本語教室の目標」の行政側とのすり合わせ（1月18日）

- ①行政が把握する外国人の現状はおそらく50%ぐらいしか見えていない。残りの見えていない人たちの掘り起こしを行う。
- ②教室の広報活動をしながら外国人コミュニティーを探る。
- ③教室に参加する外国人を起点に外国人コミュニティーを探る。
- ④行政の相談窓口を日本語教室、各外国人コミュニティーを通して知ってもらう。
- ⑤コミュニティーを探すことによって外国人の意識調査ができ、問題も見えてくる。

5. 行政が「日本語教室」行うことの意義

- ①日本語教育推進法が施行される中、行政が行うことは、日本語教育の質的保証を確保する意味がある。
- ②外国人を区民の一人として考え、区内で活躍する人材の育成を目指す。
- ③北区の様々な外国人支援団体とのつながりを持つことにより、支援を必要としている人、支援している人の把握ができるようになる。
- ④災害時や緊急事態の対応をするときに「つながり」や「コミュニティー」に頼ることができる。

⑤「北区多文化共生行動計画」(H30)を具体化し、地域住民の意識を変えることができる。

6. 行政が教室運営を日本語学校に委託することの意義

- ①教育の質を長期間、一定に保つことができる。
- ②若手教師の人材不足が目立つ中、若手からシニアまで教師を確保できる。
- ③様々な地域、様々な場の教育経験の蓄積を提供することができる。

7. 北区日本語教室の概要

教室実施日(全48回):

- 5月～7月 10回 (日本語サロン含む)
- 8月 親子日本語教室 2回
- 9月～12月 10回 × 2教室 (日本語サロン含む)
- 1月～3月 8回 × 2教室 (日本語サロン含む)

クラスレベル: 基礎日本語

目標: 学習者によってさまざまな目的がある中で、一人一人が達成したいことをできるようになる教室を目指す。文字教育、場面による会話教育など、毎回 Can-do を設定し、達成感を感じて帰ってもらう。教室は交流の場であるとともに、何かを学ぶ場である。

テキスト: 国際交流基金「いろどり」

授業形態: ①日本語ボランティアにも教室に参加してもらい、一斉授業と、個別の練習を組み合わせで行う。

②日本語サロンはボランティアの方主導で行う。

③日本語教室終了後、ボランティアの方へ日本語ボランティアグループの立ち上げを促し、今後の学習や交流の場へとつなげてもらう。

8. 教室スタート後の今後の予定および目標

- ①北区外国人支援コミュニティマップを作る。
- ②教室広報用のチラシを作る。
- ③教室に関わってもらうためのボランティア研修を行う。
- ④日本語教室終了後、ボランティアグループを作り、今後の学習や交流の場へとつなげてもらう。
- ⑤親子日本語教室をはじめ、子どもの日本語教育支援の準備をはじめめる。

9. おわりに

この6か月、たくさんの方とお会いし、お話を伺った。行政が日本語教室を行うことや日本語学校として関わっていくことの意義を何度も考えた。まだ正解はわからないが、「北区モデル」を作っていくことで、全国約800校の日本語学校の存在意義や日本語教師(R2文化庁調査 日本語教師の数約4万人うちボランティアが2万1898人(52.4%))のあり方を問いかけるきっかけとなることを期待する。まずは、初年度、「北区モデル日本語教室」の土台作りを行い、その仲間づくりを地道にすすめていきたい。